

2026年5月

2026年3月期

(2025年4月1日～2026年3月31日)

決算説明資料

ディーバイエックス株式会社



当期の決算概況		P
	(1) 当期方針と取り組み	4
	(2) 要約連結損益計算書	5
	(3) 売上高	6
	(4) 売上総利益	11
	(5) 営業利益	13
	(6) 当期純利益	15
	(7) 要約連結貸借対照表	16
	(8) 要約連結キャッシュ・フロー計算書	17
	(9) 配当	18
	(10) 資本コストと株価を意識した経営	19
2027年3月期の見通し	(1) 2027年3月期の方針と取り組み	21
	(2) 連結業績予想（売上高）	22
	(3) 連結業績予想（営業利益、当期純利益）	23
	(4) 配当予想	24
参考資料	(1) 会社概要	26
	(2) 沿革	27
	(3) 事業系統図	28
	(4) 事業の特徴	29
	(5) 企業理念	30

当期の決算概況

当期方針と取り組み



方針①	利益率、生産性向上 ～医療への持続的な貢献～	・ 自社企画品など高利益率商品の拡販 ・ インセンティブや一括買取りによる仕切価格交渉 ・ DX推進による事務フローの自動化と省力化 ・ 基幹システム改善等による物流と販売管理機能の強化
方針②	地域的依存度低減 ～コア事業での競争力の保持～	・ 施設拡大と品目拡大 ・ 主要大学や病院の新規獲得 ・ 事業単位での配賦後営業利益改善 ・ クリニック営業展開
方針③	強靱な事業ポートフォリオ ～リスクの分散とニーズの追求～	・ 輸入商品の販売強化 ・ ニーズ志向の製品探索・製品導入 ・ RAQUOSの品質・供給における早期安定化 ・ M&Aや投資の積極的な検討
方針④	新たな成長基盤の強化（市場） ～世界中の生命と健康を守る～	・ 海外市場の開拓（薬事申請と販路の確保） ・ SUD事業、リサイクル事業の確立 ・ 新製品の発掘 ・ 超聴診器の拡販
方針⑤	成長基盤の強化（組織） ～技術・環境の変化を機会にする～	・ E：DX推進によるペーパーレス化、ガソリン消費量の削減 ・ S：働きがいのある職場環境の整備 ・ G：コーポレートガバナンス強化、コンプライアンス推進

要約連結損益計算書



当期より連結財務諸表を作成しております。

参考情報として単体の前期実績の数値および増減率を記載しております。

単位：百万円

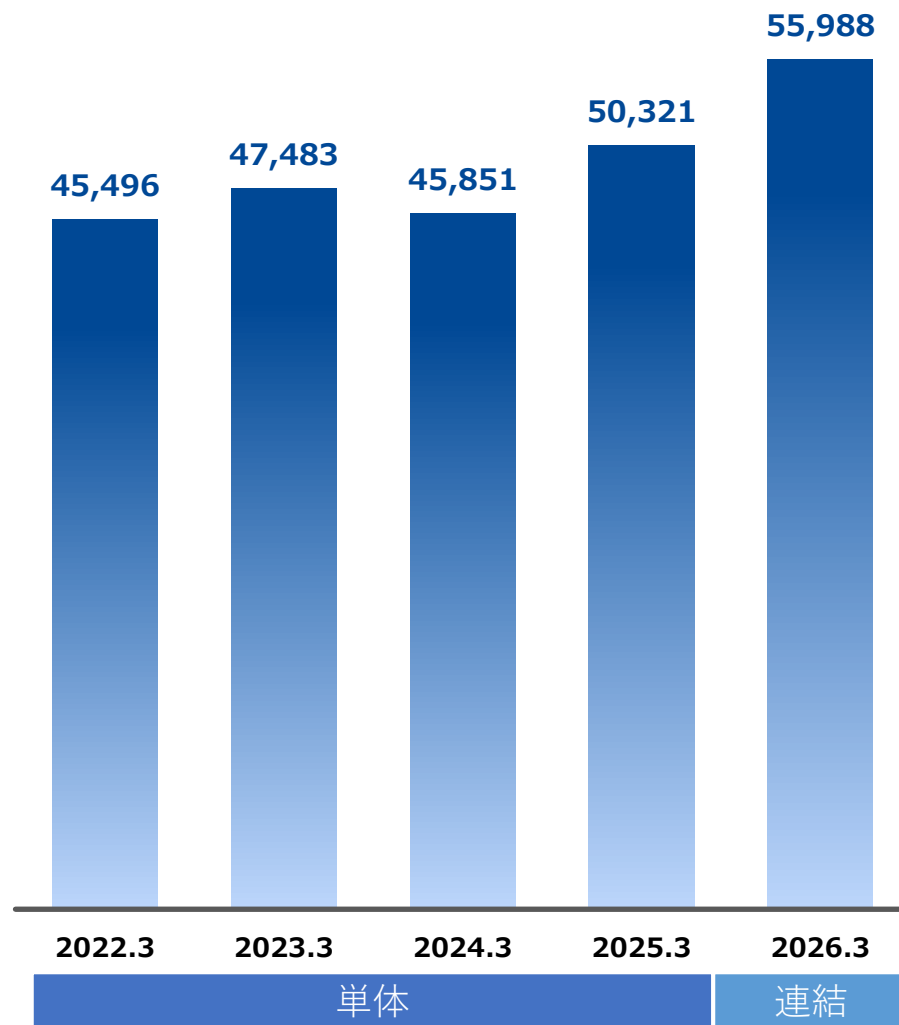
	当期実績 (連結)	構成比 (%)	前期実績 (単体)	増減率 (%)
売上高	55,988	100.0	50,321	+ 11.3
売上総利益	5,365	9.6	4,994	+ 7.4
販管費	5,071	9.1	4,456	+ 13.8
営業利益	294	0.5	537	△ 45.3
経常利益	301	0.5	542	△ 44.5
当期純利益	225	0.4	410	△ 45.0

売上高 **559.8億円**

前期比 **11.3%増** 

	実績 (百万円)	増減率 (%)
不整脈	45,709	+7.5
虚血	4,002	+25.3
その他	6,277	+36.2
合計	55,988	+11.3

(単位：百万円)



売上高（不整脈事業）



売上高 457.0億円

前期比

7.5%増



- 症例数が増加
- 前期9月販売開始のPFAの普及により、電極カテテル、ABL機能付カテ、冷凍ABLカテが減少

（単位：百万円）



単位：百万円

	当期 (連結)	前期 (単体)	増減率 (%)
PM	3,988	3,920	+1.7
ICD	2,430	2,307	+5.3
CRT-D	1,756	1,773	△0.9
電極カテテル	11,410	11,744	△2.8
心腔内エコーカテ	5,047	4,561	+10.7
ABL機能付カテ	4,787	5,708	△16.1
ABLカテテル	77	194	△60.4
冷凍ABLカテ	269	2,251	△88.0
PFAカテテル	7,582	1,788	+324.0
その他	8,360	8,269	+1.1
合計	45,709	42,519	+7.5

売上高（虚血事業）



売上高 40.0億円

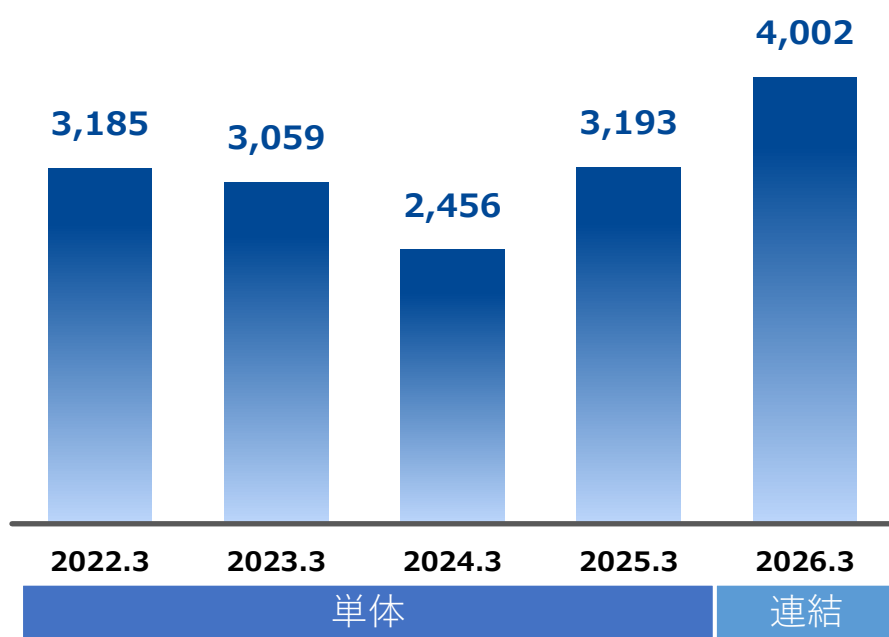
前期比

25.3%増



- RAQUOSの販売も順調に推移
- その他では前期下期に販売代理店業の新規施設獲得により増加

（単位：百万円）



単位：百万円

	当期 (連結)	前期 (単体)	増減率 (%)
SPNC	129	221	△41.6
RAQUOS	334	271	+23.3
その他	3,538	2,700	+31.0
合計	4,002	3,193	+25.3

売上高（その他）



売上高 62.7億円

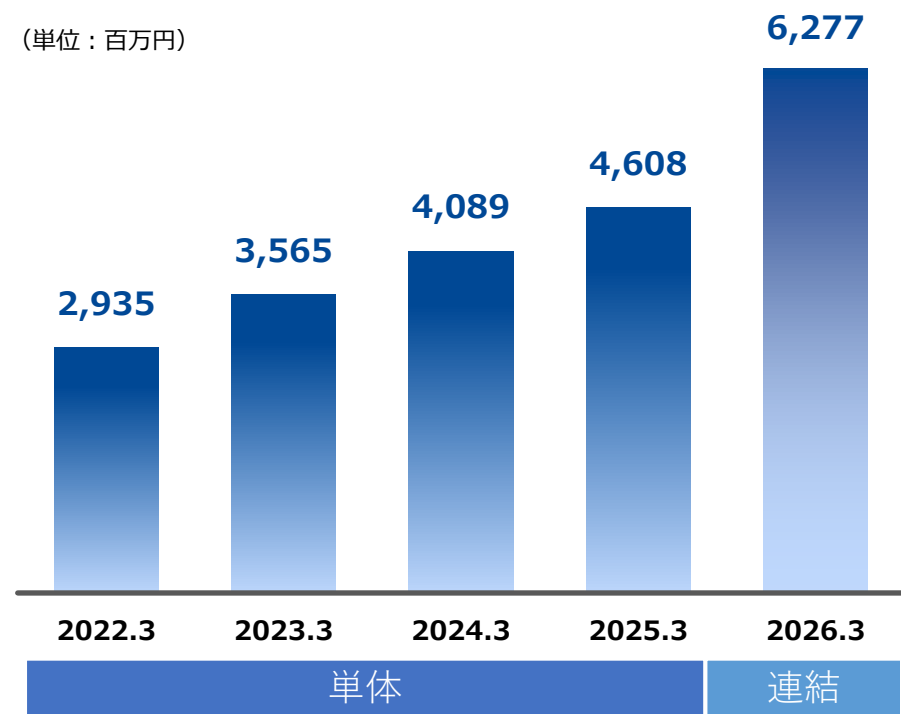
前期比

36.2%増



- TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）など好調
- 当社にとって新領域であるため伸びしろが大

（単位：百万円）



単位：百万円

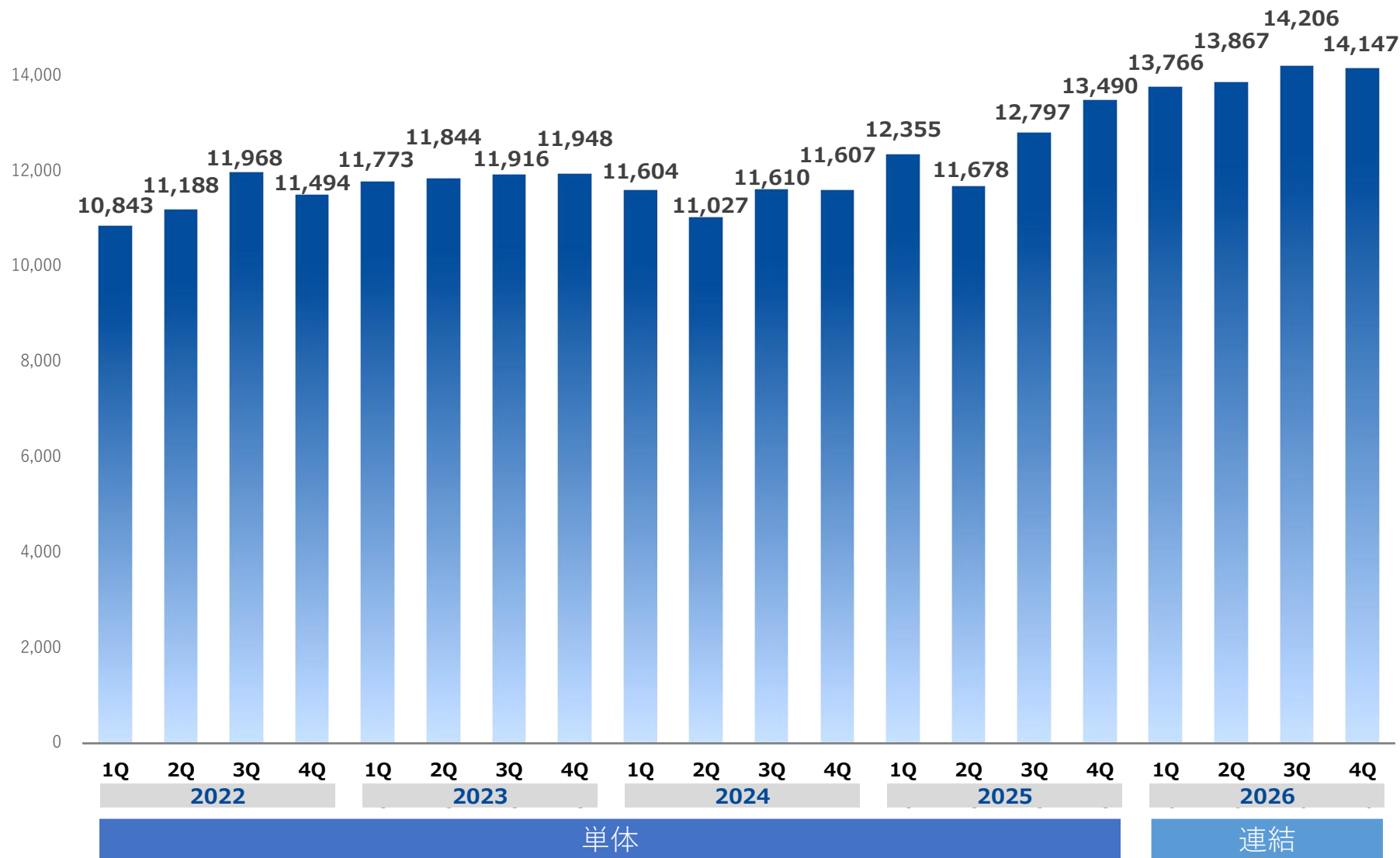
	当期 (連結)	前期 (単体)	増減率 (%)
ストラクチャー	2,549	1,853	+37.6
頭部腹部領域	1,803	1,515	+19.0
心臓血管外科	216	234	△7.3
外科	348	248	+40.4
その他	1,358	757	+79.3
合計	6,277	4,608	+36.2

※連結子会社の実績はその他に計上しております。

四半期売上高の推移



(単位：百万円)



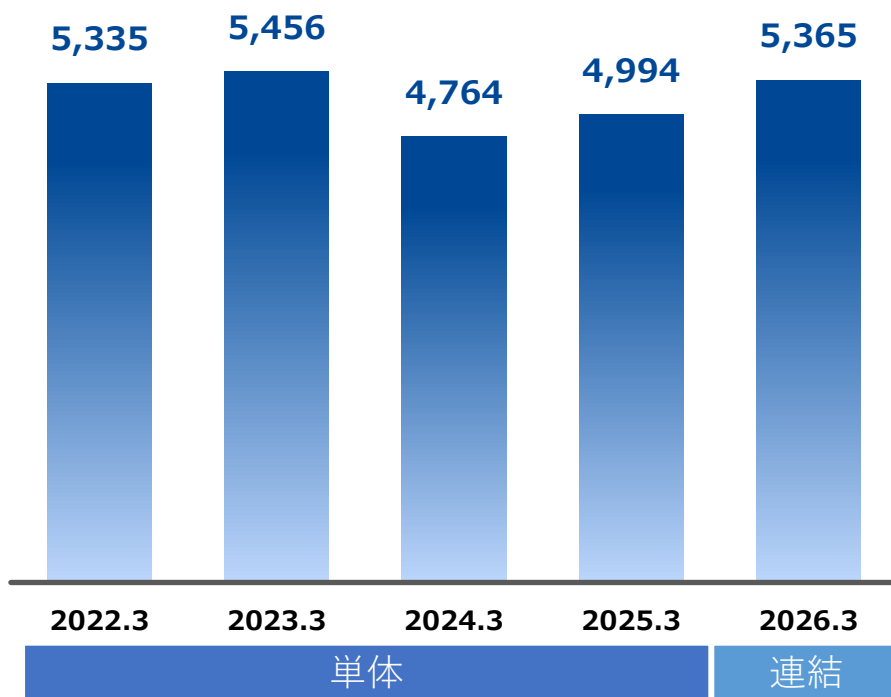
売上総利益 53.6億円

前期比

7.4%増

■ 粗利率9.6%（前期9.9%）

（単位：百万円）



単位：百万円

	当期 (連結)	前期 (単体)	増減率 (%)
不整脈	4,134	4,122	+0.3
虚血	449	373	+20.3
その他	782	498	+57.0
合計	5,365	4,994	+7.4

売上総利益（事業別）



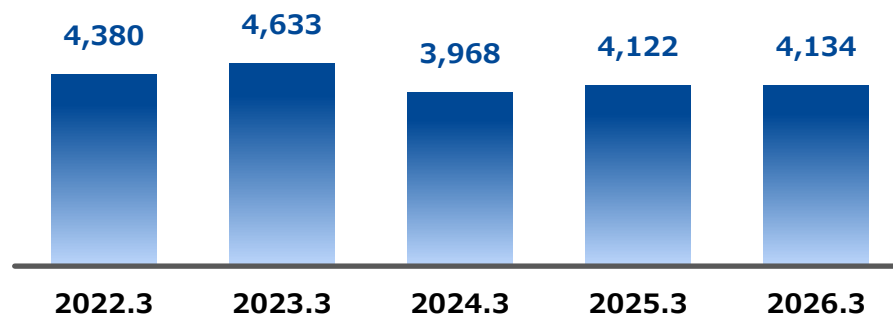
（単位：百万円）

不整脈事業

セグメント利益 **41.3億円**

前期比 **0.3%増**

- 売上高増加（前期比7.5%増）
- 粗利率低下（粗利率9.0%、前期9.7%）
- 仕入単価の上昇による粗利率の低下

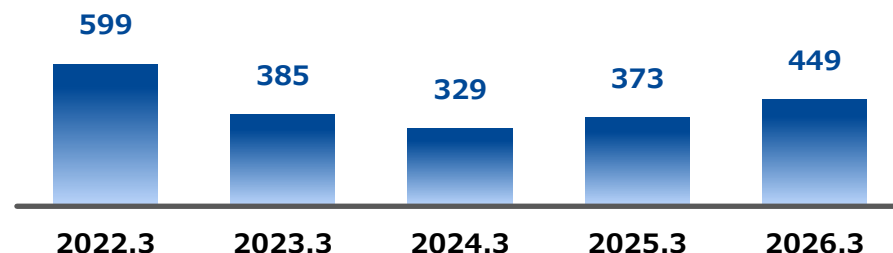


虚血事業

セグメント利益 **4.4億円**

前期比 **20.3%増**

- 売上高増加（前期比25.3%増）
- 粗利率低下（粗利率11.2%、前期11.7%）
- 販売代理店業の割合増加

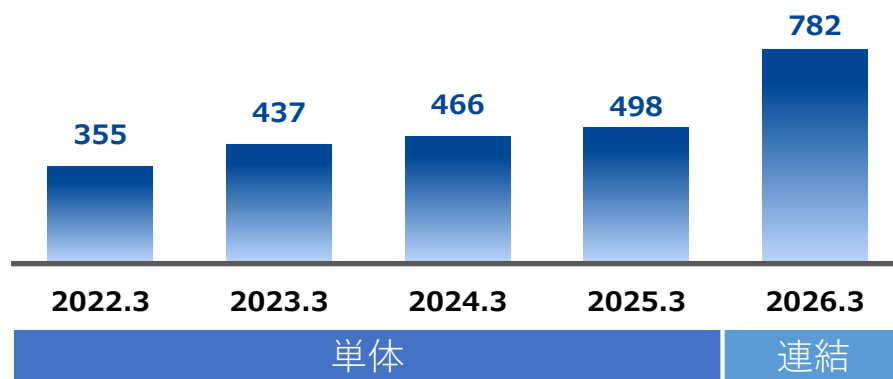


その他

セグメント利益 **7.8億円**

前期比 **57.0%増**

- 売上高増加（前期比36.2%増）
- 粗利率改善（粗利率12.5%、前期10.8%）
- 高利益率商品・サービスの拡販により粗利率改善



営業利益 2.9億円

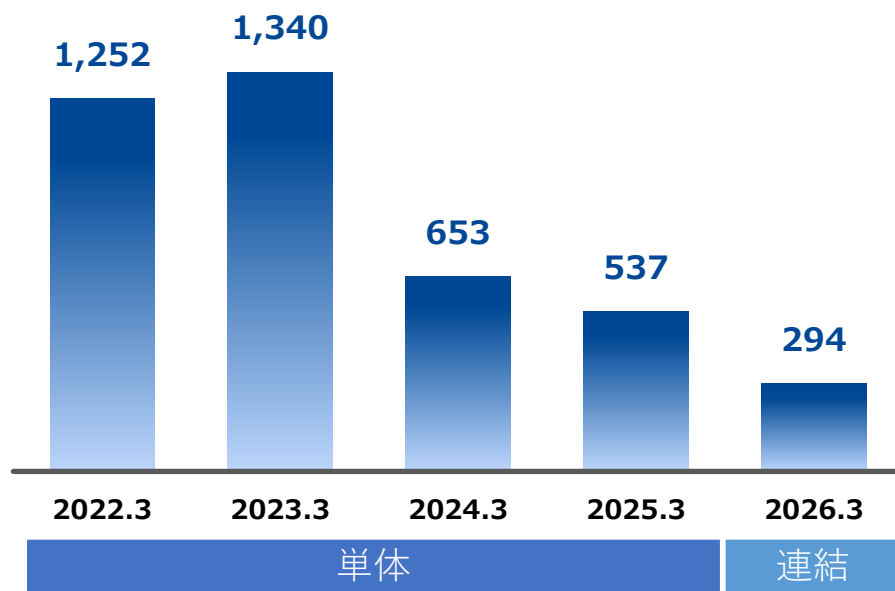
前期比

45.3 %減

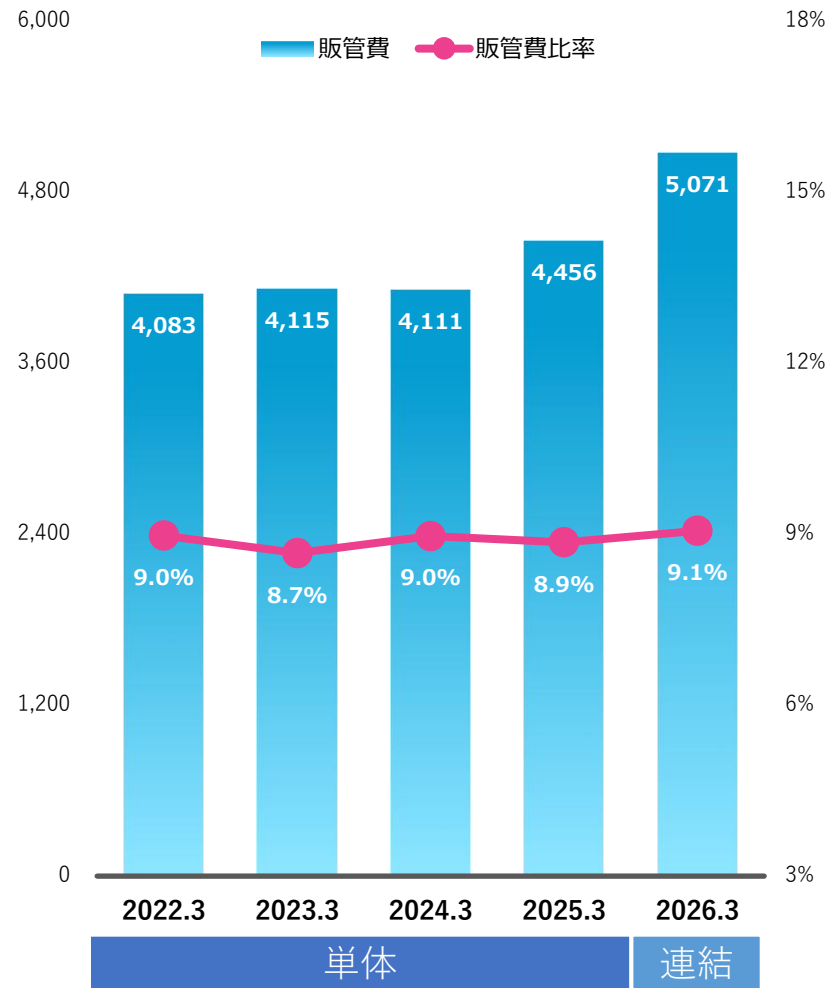


- 売上総利益 前期比7.4%増
- 販売管理費 前期比13.8%増
- 売上高営業利益率0.5%（前期1.1%）
- 売上高販管費比率9.1%（前期8.9%）

（単位：百万円）



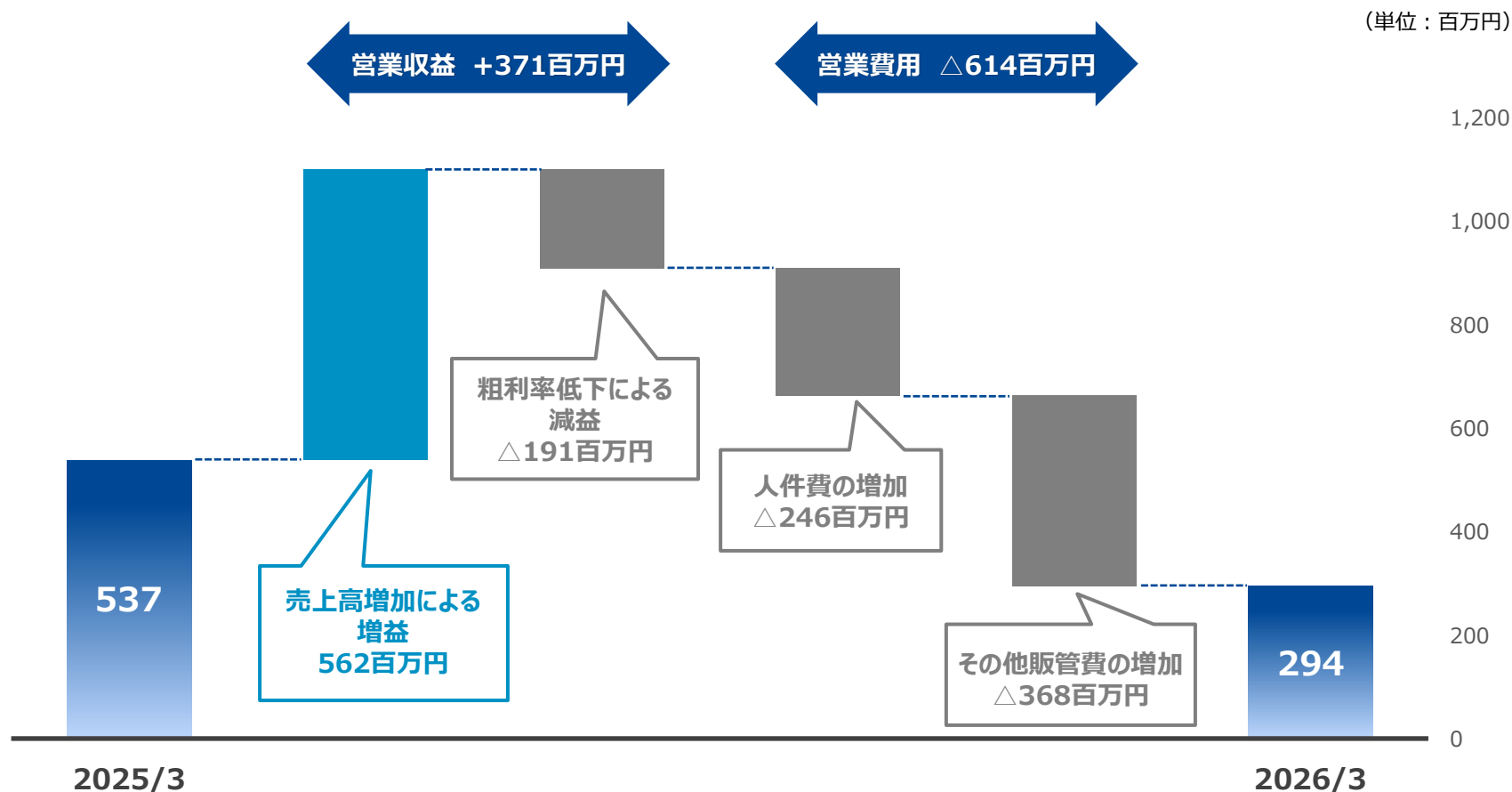
（単位：百万円）



営業利益増減分析



売上高の増加で562百万円増益、粗利率の低下で191百万円減益、人件費の増加で246百万円減少、その他販管費の増加で368百万円減少、前期から243百万円減益



当期純利益 2.2億円

前期比

45.0 %減

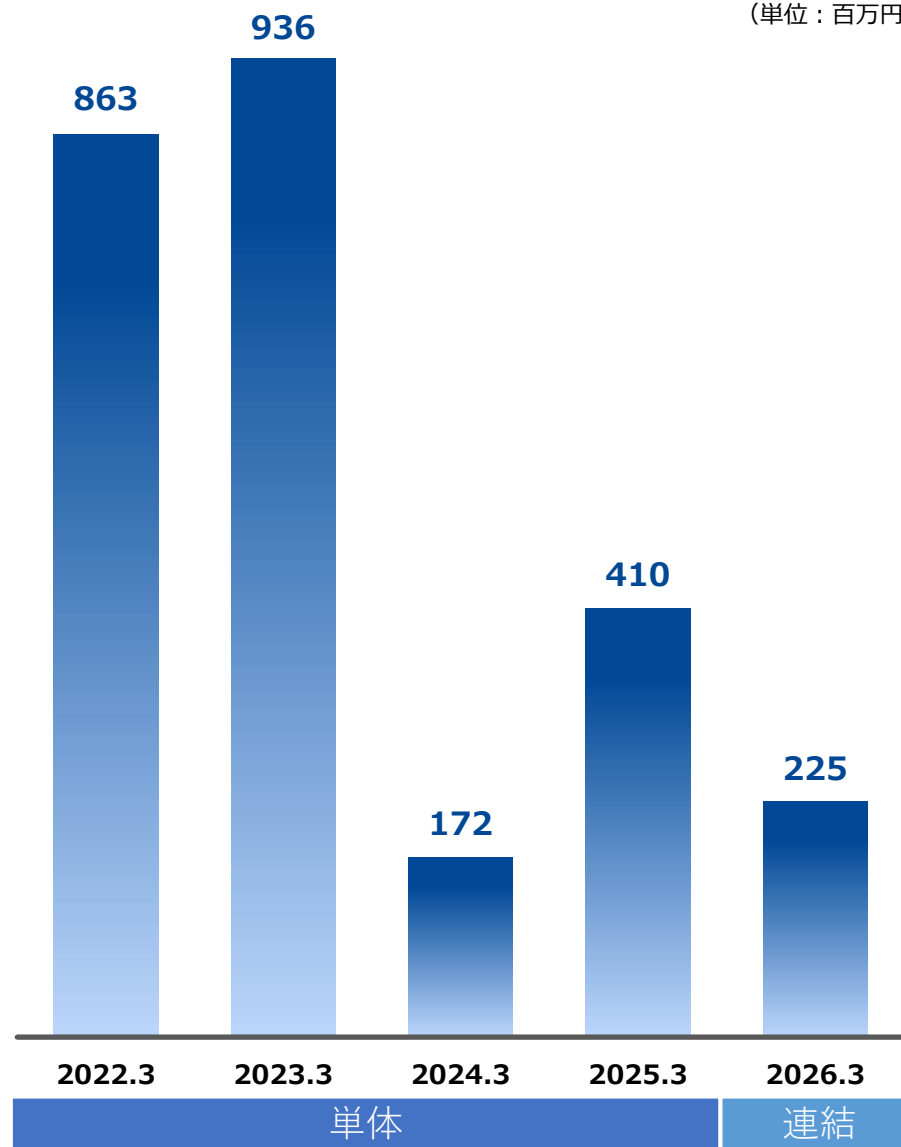


主な営業外損益

- 受取利息 4百万円
- 受取配当金 4百万円
- 投資事業組合運用損 2百万円
- 為替差損 1百万円

主な特別損益

- 固定資産売却益 2百万円
- 固定資産除却損 1百万円



要約連結貸借対照表



単位：百万円

	実績 (連結)	構成比 (%)	前期末実績 (単体)	増減率 (%)	主な増減要因
流動資産	22,027	88.1	23,436	△6.0	現預金の減少 △742百万円 受取手形、売掛金の増加 +504百万円 商品の増加 +584百万円 金銭の信託の減少 △2,000百万円
固定資産	2,972	11.9	2,100	+41.5	工具、器具及び備品の増加 +147百万円 投資有価証券の増加 +127百万円 のれんの増加 +164百万円
資産合計	25,000	100.0	25,537	△2.1	
流動負債	15,470	61.9	15,881	△2.6	買掛金の減少 △495百万円
固定負債	686	2.7	528	+30.0	退職給付引当金の増加 +31百万円 その他固定負債の増加 +121百万円
負債合計	16,157	64.6	16,409	△1.5	
純資産	8,842	35.4	9,127	△3.1	剰余金の配当による減少 △523百万円 当期純利益 +225百万円
負債純資産合計	25,000	100.0	25,537	△2.1	

要約連結キャッシュ・フロー計算書



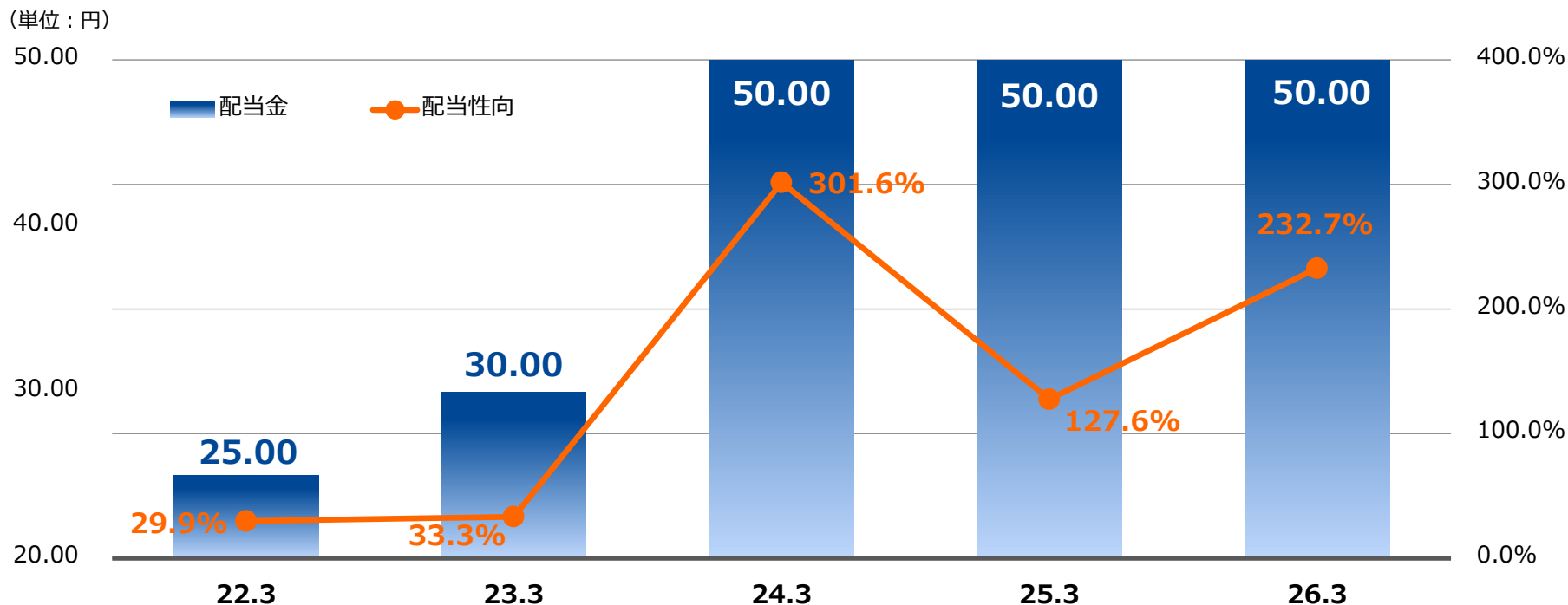
単位：百万円

	当期 (連結)	前期 (単体)	当期の主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,273	725	税前当期純利益（302百万円） 減価償却費（743百万円） 売上債権の増加（△1,055百万円） 棚卸資産の増加（△1,080百万円） 仕入債務の減少（△527百万円） 法人税等の支払額（△202百万円）
投資活動によるキャッシュ・フロー	△919	△631	有形固定資産の取得（△439百万円） 投資有価証券の取得（△149百万円） 子会社株式の取得（△229百万円）
財務活動によるキャッシュ・フロー	△551	△524	配当金の支払（△523百万円）
現金及び現金同等物の増減額	△2,744	△430	
現金及び現金同等物の期首残高	7,058	7,489	
現金及び現金同等物の期末残高	4,313	7,058	

配当方針

株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題として、企業価値および株式価値の向上を図ることで株主還元を継続的かつ安定的に強化する。配当については、DOE（株主資本配当率）5.0%以上を目途に配当額を決定する。

期末配当 50.0円（配当性向 232.7%、DOE 5.9%）



1.現状分析 ROE

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
当期純利益（千円）	863,016	936,184	172,913	410,119	225,381
ROE（%）	10.5	10.5	1.9	4.5	5.1

2.現状分析 PBR

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
最高株価	1,249	1,097	1,114	1,016	1,820
最低株価	936	836	810	877	835
PBR（最高株価）	1.62	1.32	1.25	1.15	2.09
PBR（最低株価）	1.22	1.01	0.90	1.00	0.96

2027年3月期の見通し

2027年3月期の方針と取り組み



方針①	利益率、生産性向上 ～医療への持続的な貢献～	「効率的成長」に向け、インプット・アウトプット両面から生産性向上を図る。
方針②	地域的依存度低減 ～コア事業での競争力の保持～	全国展開とシェア拡大を推進し、拠点ごとに資本コストを意識したマネジメント力の強化を図る。
方針③	強靱な事業ポートフォリオ ～リスクの分散とニーズの追求～	主力製品の取引喪失による粗利率の低下や取扱い商品の減少による機会ロスを解消する。
方針④	新たな成長基盤の強化（市場） ～世界中の生命と健康を守る～	海外事業開拓と隣接事業開拓に向けて。
方針⑤	成長基盤の強化（組織） ～技術・環境の変化を機会にする～	全社的な取り組みとして、継続的な取り組み状況の開示。開示項目の充実を図る。

連結業績予想（売上高）



（単位：百万円）

売上高 577.5億円

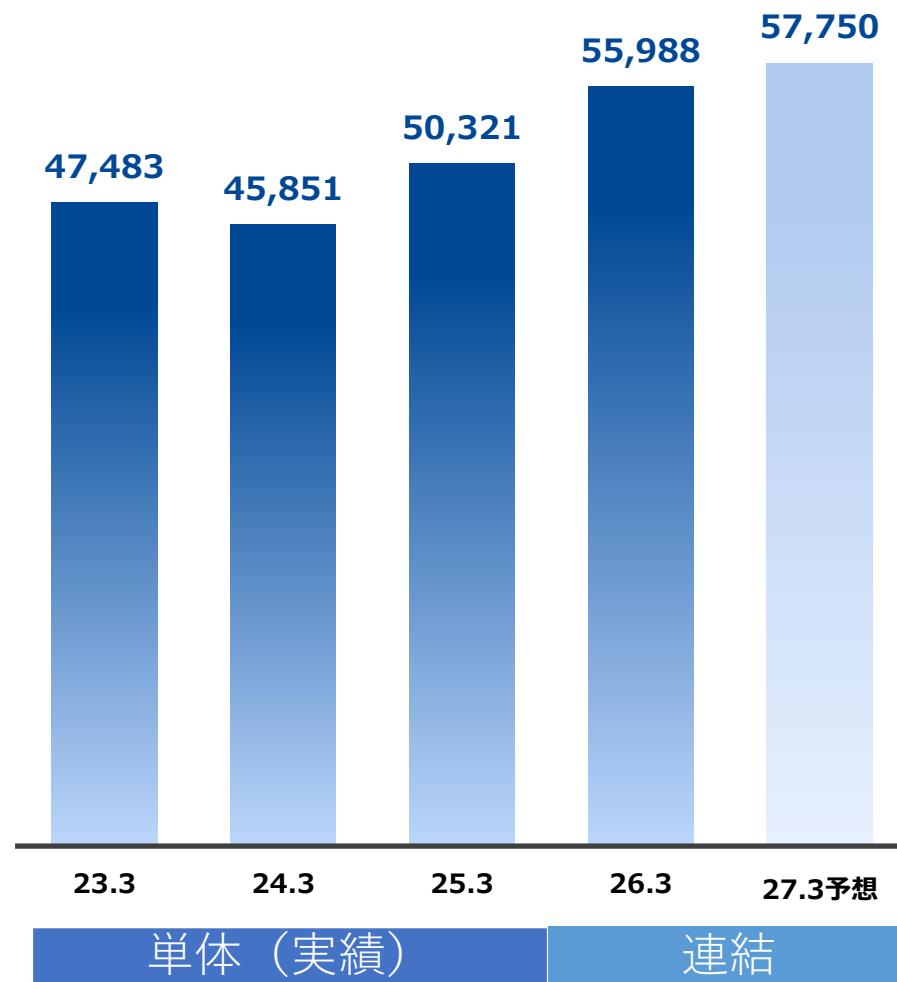
前期比

3.1 %増



- 全国展開、施設拡大、シェアUP、品目拡大による売上増加を見込む
- RAQUOSの拡販を見込む

	実績 (百万円)	増減率 (%)
不整脈	46,494	+1.7
虚血	4,391	+9.7
その他	6,865	+9.4
合計	57,750	+3.1



連結業績予想（営業利益、当期純利益）



営業利益 4.8億円

前期比 63.2%増

- 売上高の増加を見込む（営業利益増加要因）
- 粗利率の上昇を見込む（営業利益増加要因）
- 販管費（人件費）の増加を見込む

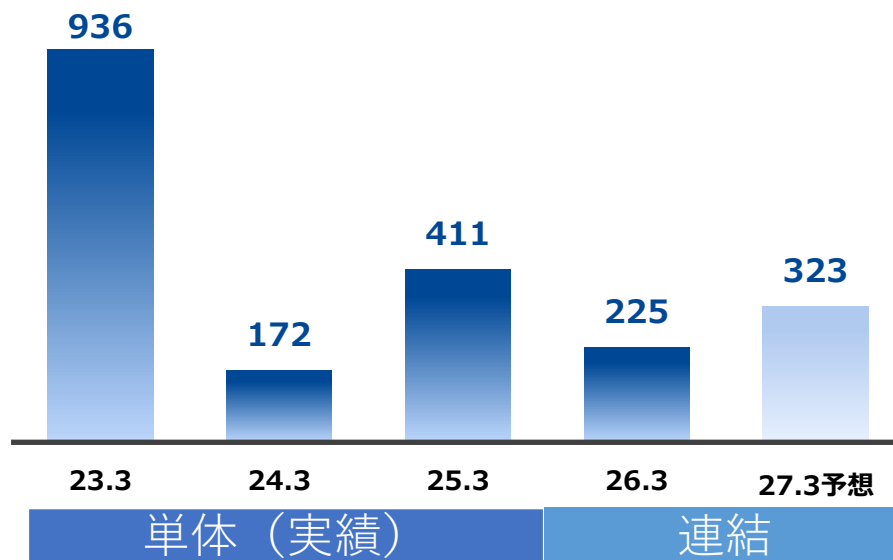
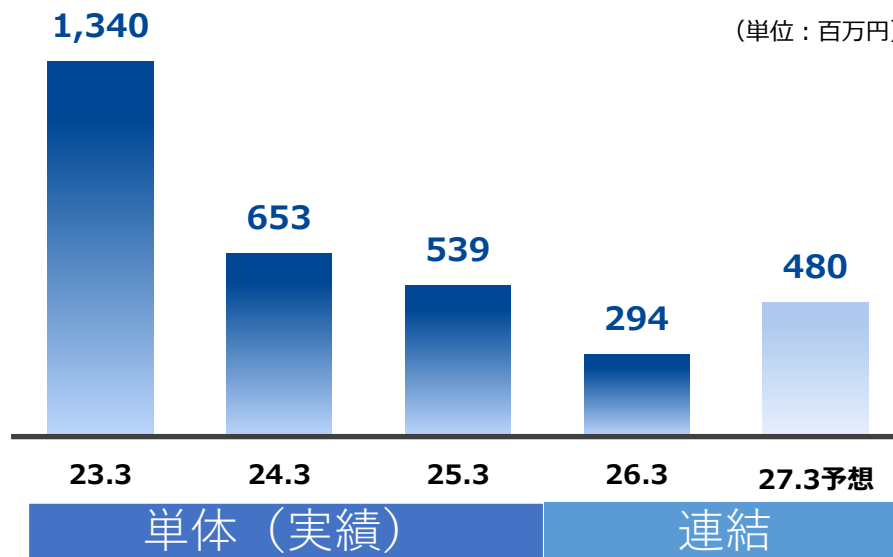
当期純利益 3.2億円

前期比 43.3%増

予想EPS 30円78銭

前期実績 21円49銭

（単位：百万円）



期末配当金 **50.0円**

2026年3月期 **50.0円**

配当性向 **162.2%**

2026年3月期 **232.7%**

株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題として、企業価値および株式価値の向上を図ることで株主還元を継続的なつ安定的に強化する。配当については、DOE（株主資本配当率）5.0%を目途に配当額を決定する配当方針を継続。

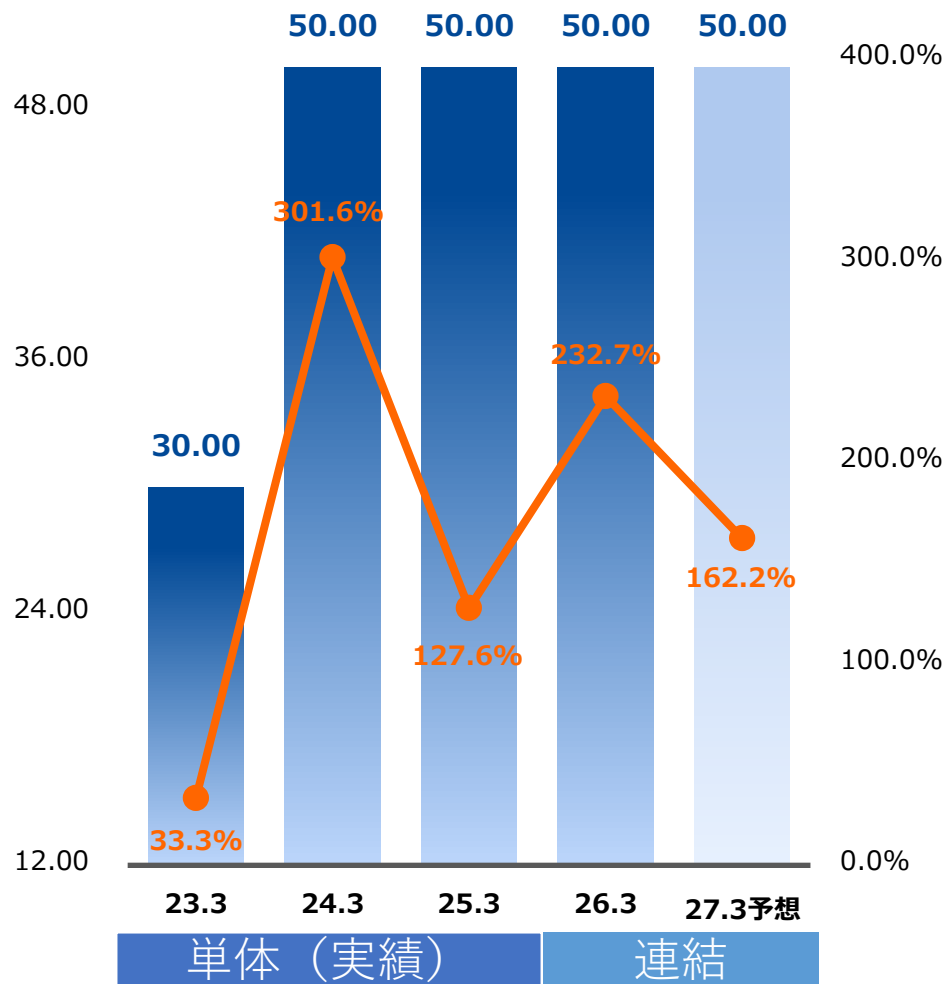
(単位：円)

60.00

■ 配当金

● 配当性向

500.0%



参考資料

会社概要



注：2026年3月31日時点の状況です。

設立 1986年4月1日
資本金 344,457千円
従業員数 377名（連結）

取扱商品数 8,837
販売先施設 1,300

事業所数 営業所 22
出張所 1
物流センター 1
技術サービス 1

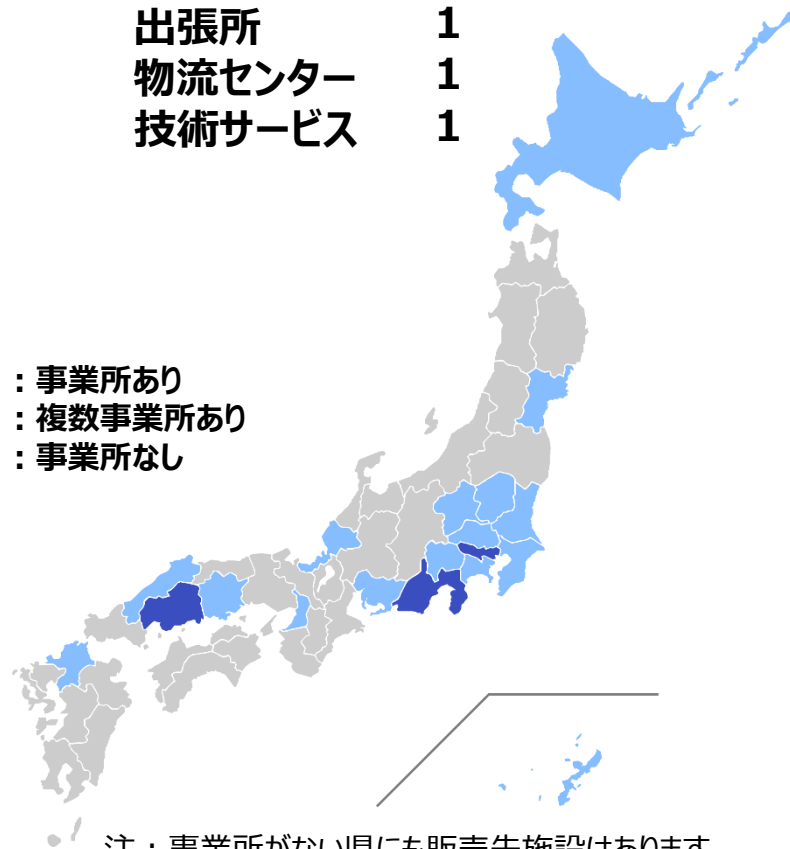
- ソリューション・プロバイダー
- 地域密着営業
- スペシャリスト集団
- 挑戦型企业

病気で苦しむ人々の
Quality of Lifeの向上

人に優しい医療への貢献



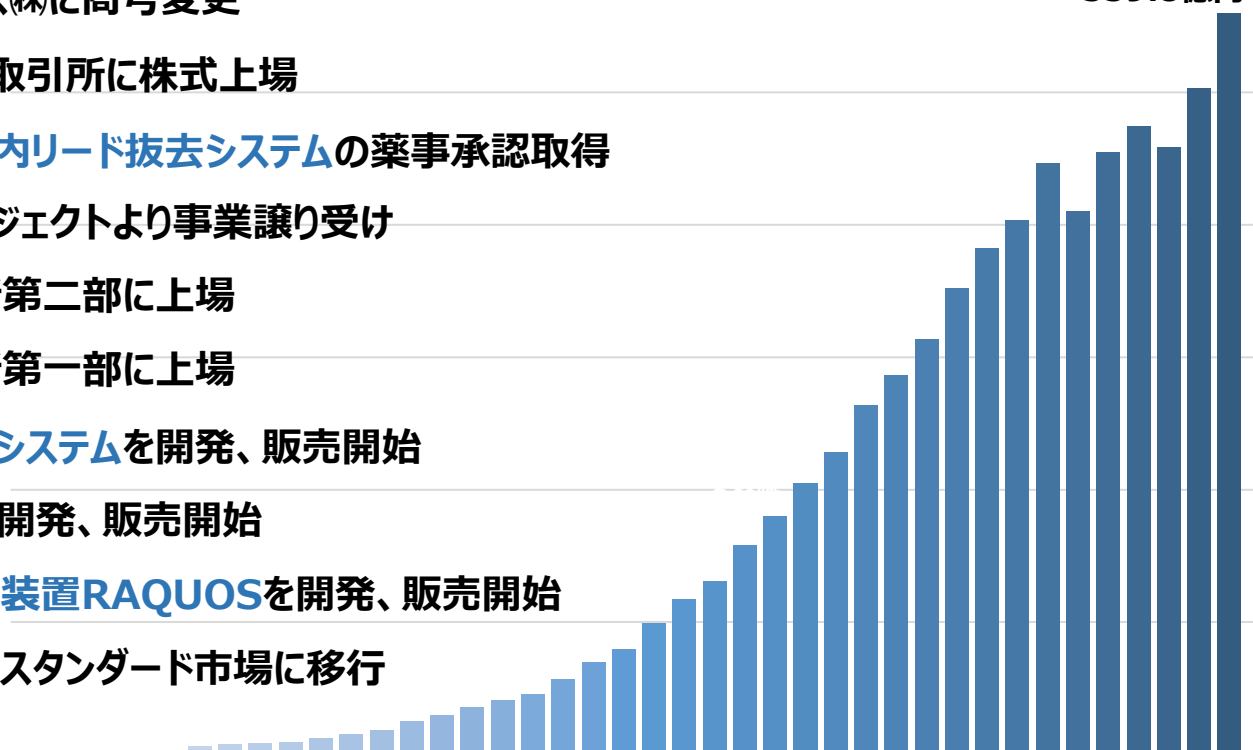
- : 事業所あり
- : 複数事業所あり
- : 事業所なし

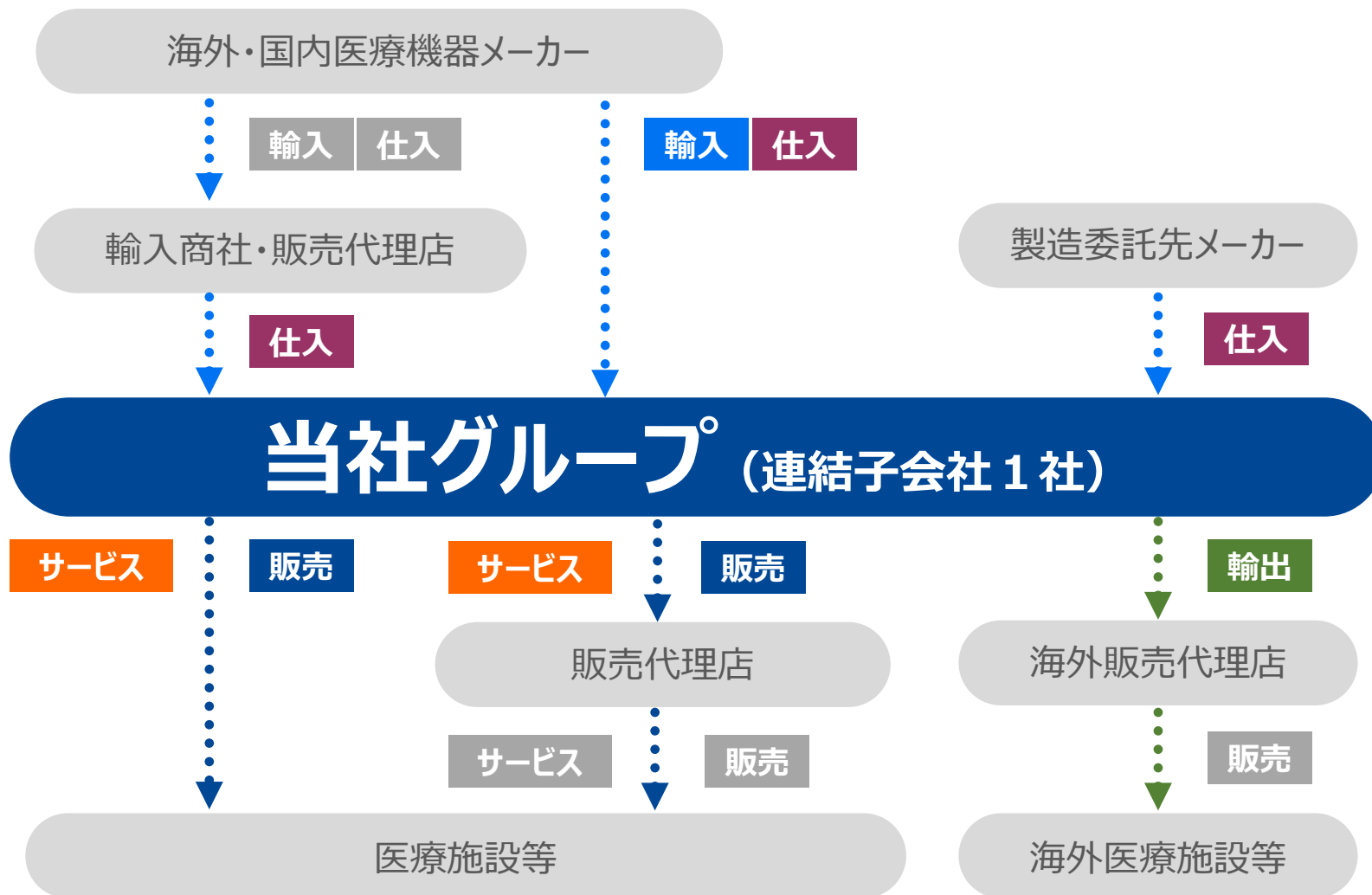


注：事業所がない県にも販売先施設はあります。

- 1986 心臓ペースメーカー販売とフォローアップ業務を目的として、(株)ヘルツを設立
- 1992 心臓電気生理検査用機器の輸入販売を開始
- 2000 自動造影剤注入装置ACISTの輸入販売を開始
- 2000 日本で初めてAED（自動体外式除細動器）を販売 日本航空の機内に搭載
- 2003 エキシマレーザ血管形成システムの輸入販売を開始
- 2004 ディーバイエックス(株)に商号変更
- 2007 ジャスダック証券取引所に株式上場
- 2008 エキシマレーザ心内リード抜去システムの薬事承認取得
- 2010 (株)メディカルプロジェクトより事業譲り受け
- 2013 東京証券取引所第二部に上場
- 2014 東京証券取引所第一部に上場
- 2017 画像マネジメントシステムを開発、販売開始
- 2020 EPSトレーナーを開発、販売開始
- 2021 自動造影剤注入装置RAQUOSを開発、販売開始
- 2022 東京証券取引所スタンダード市場に移行

2026年3期売上高
559.8億円





注：輸出の実績は僅少です

専門性

循環器分野に強い
スペシャリスト集団
高い問題解決能力
医療現場からの信頼

首都圏

首都圏で
不整脈分野No.1のシェア
首都圏売上高比率60.6%
※2026年3月期実績



コア事業における競争力の保持



新たな
市場

新たな
事業

新たな
地域

利益率
生産性
向上

組織
強化

強靱な事業ポートフォリオ形成

Purpose

パーパス（私たちの存在理由）

生命と健康を守る。



Mission

ミッション（私たちがなすべきこと）



患者・医師・医療関係者にとって有益な製品・サービスを提供し、最適な医療の普及に貢献する。

Vision

ビジョン（その先にある未来像）



医療の現場や社会から求められるリーダーを目指す。
人種・性別・世代を問わず、多様な個性で変化を捉え、新たな事業を開拓する。

Values

バリューズ（私たちが共有する価値観）



- 私たちは、人に優しい医療の実現に貢献する。
- 私たちは、ニーズを捉え、最適なサービスを考える。
- 私たちは、相互に理解し合い、相互に助け合う。
- 私たちは、自己の目標を定め、常に能力の向上を目指す。
- 私たちは、適正な利益を確保した公正な取引を行う。
- 私たちは、人の『心』をもって正直に行動する。



*Development
Venture*

X (無限の可能性)

IRについてのお問い合わせ先 財務経理部

E-Mail : ir_form@dvx.jp URL : <https://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。